

Home

長洲町に生まれて

この町で生まれ、この町で育ち、そして今、古里・長洲町を思う…。このコーナーでは、さまざまな分野で活躍する長洲町出身の人を紹介します。

フォトグラファー

こじま ゆきこ
児島 由季子 さん

【PROFILE】

1985年6月20日生まれ。宮ノ町区出身。長洲小、長洲中、熊本学園大付属高校卒業後、2005年からフリーのフォトグラファーとして活動を開始。風土や文化、サブカルチャーを中心に撮影。2011年に開業助産師の村上理恵さん（熊本市）と出会い、出産をテーマに撮影を開始。以降、県内各地で「自然なお産の写真展」を開催し、命の誕生を迎える姿、大切さを伝えている。現在、熊日新聞夕刊にて「迎えるいのち」を連載中。3児の母。33歳。

伝統を残したい
長洲町で写真展を開催

7月10日から14日、カフェあゆたりにて、写真展『高田製油所―時の記憶―』が開催された。企画したのは児島由季子さん。長洲町出身で現在は大牟田市を拠点に活動するフォトグラファーだ。

ある日、創業70年になる高田製油所がこととして閉業することを知った。子どもの頃から、伝統を受け継いだ製法により作られる油の香り、職人の手仕事による温かみをいつも感じていたという児島さん。「創業以来の伝統と職人の想いが詰まった場所を、多くの人に知ってほしいと思いました」と写真展を企画した。

実は、3年前から高田製油所の写真を取り始めていた児島さん。工場内を見学させてもらったとき、手入れの行き届いた伝統ある設備、職人の手間を惜しまず良いものを作ろうという姿勢に、職人魂と、かっこよさを感じ、写真に残したいと思ったという。

高田さん夫妻は、「製造を終え、長年にわたって頑張ってくれた機械を解体する前に、こんなに素晴らしい形で残していただき、本当にうれしいです」と児島さんへの感謝を話す。

児島さんは、「写真として残すことの大切さを感じる写真展になりま

した。これからも、長洲町の伝統あるものを、写真を通して残していきたいです」と今後の抱負を語る。



作品を前に素敵な笑顔の高田さん夫妻と児島さん

幸福な出産が家族を変える

そんな児島さんは、出産・命をテーマに写真を撮り続けている。きっかけは自身の出産と、助産師との出会い。「出産は痛くて苦しいけれど、それを超えて深い喜びを感じられる。新たな命を家族で迎える幸せな瞬間を伝えたいんです」と強い想いをもっている。児島さんは各地で写真展を開催するほか、現在は熊日新聞夕刊にて『迎えるいのち』を連載中。「これから出産する人などに幸せと感動の瞬間を感じてほしい」と命と向き合うことの大切さを伝えている。

『迎えるいのち』は今月まで連載中。

